

彼女は俺になぜ孤独なのかと聞いた
俺は答えられなかった

彼女は俺になぜ私に話しかけるのかと聞いた
俺は答えられなかった

彼女の目に浮かぶ感情は、悔しさだったように思う

俺は彼女に名前を聞いた
彼女はそれに答えてくれて、意を決したように話し始めた
一度は諦めた彼女の目的とその歴史について
しかしそれを語る彼女の瞳には、何か別の目的が映っているような、そんな気がした